

1. 広島市中区最高峰 皿山 (52m)～江波山 (37.6m) 広島市中区



中区の最高峰、皿山がある江波地区は中区の南端。住宅地として市街化されたが牡蠣養殖などの漁業も継続されてきた。埋立地には多くの工場があったが今は工場跡にマンションや住宅が立ち並ぶ。

広島市中区	2017,4.1 推定
<面積>	15.32 km ²
<人口>	134,469人
<人口密度>	8,780人/km ²

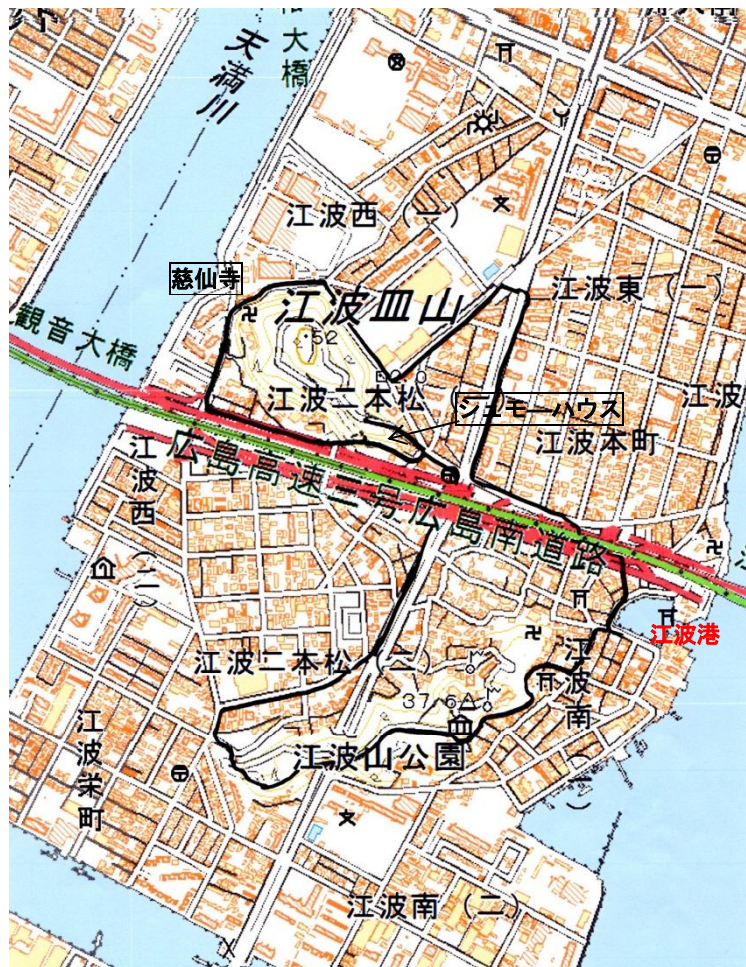
江波山から皿山を写す

【山行日】 4月5日 (水) ☆天候：曇り時々晴れ

【参加者】 10名 CL新江みどり SL若木一之
松本 中島(恵) 若林 眞田 堂垣内 三浦 三村 田所

【コースタイム】

広電江波車庫 9:40→慈仙寺 9:50→シュモ一ハウス 10:30→皿山(工事中)登り口 10:50→江波山 11:20→気象館 11:50→シェ・ヤマライ 13:50→衣羽神社 14:00→江波港 14:20→14:40 広電江波車庫



【報告】

皿山も江波山も元は広島湾に浮かぶ一続きの島だった。江戸時代、舟入と地続きになるが半農半漁の寒村。江波港は広島城下の外港で、港から城下へ向かう人を騙していたのが「おさんぎつね」。宮島の能役者がおさんぎつねをだます話など残っている。幕末には、江波港を横浜や神戸のような貿易港にとの案もあったようだが、宇品築港で立ち消える。

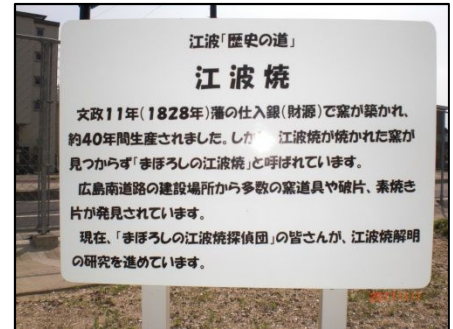
広島が軍都への歩を進めていく中、皿山の北東に斜めの長方形軌跡が残っている所に、陸軍の射的場が置かれた。皿山に向かって射撃訓練がされていたようで「はだしのゲン」には、埋まった砲弾の鉄くずを集める姿が描かれている。原爆投下時には皿山、江波山はたくさんの避難者であふれた。山行日は工事中で頂上まで登ることはできなかった。江波山は広島市制定の最も古い公園で、南側は昭和初期まで白砂青松の海岸が広がり広島市の観光地だった。今も桜の季節にはたくさんの人で賑わう。昭和の時代、江波山で広島の気象観測の要だった測候所が気象博物館に姿を変え残っている。歩いた軌跡をたどってみると何と！ちょうど昔の島の形になっていた。

(記 新江みどり)

下島と呼ばれていたのに、なぜ皿山と呼ばれるようになったのでしょうか？

市街化されて窯跡は不明だが皿山の麓で、浅野藩の保護監督のもとに、伊万里陶工の技術を導入し陶土を仕入れ、江波近郊の海浜風景を染付した磁器が製作されていたという説がある。“幻の江波焼き”と言われている。

その真偽は不明であるが、今回、南道路建設に際して工事中に焼き物片が掘り出されたようである。皿山の麓で焼き物をしていたのは確かなようである。



皿山北西中腹にある慈仙寺



皿山南麓のシュモーターハウス



平和公園内にあったお寺で原爆で灰燼に帰し、昭和45年(1970)にこの地に再建された。境内には原爆で焼かれた「六地藏」がある。

平和公園には吹き飛んだ墓石が残されている。

アメリカの森林学者、フロイト・シュモーターが原爆被爆者のために建てた住宅の一つ。集会所として利用されていたが、南道路建設のため曳家移転し、平和記念資料館の付属展示施設となっている。



行政区最高峰山行の中で、皿山は最低峰の山。工事中で、登られなかった。

こまったなあ・・・

シェ———！

次なる江波山へ行こう。